

子どもたちの体力向上や運動習慣を高めるプログラム

# スポーツ大好きクラブ PART 2

## 1. 趣 旨

様々な運動に挑戦する体験を通して、運動の楽しさや喜びを体感し、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成する。

## 2. 期 日

平成26年6月21日（土）～22日（日） 1泊2日

## 3. 主 催

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

## ※協 力

函館学生連合「息吹」 計11名

カヌーイースト大沼 計3名

## 4. 参加対象

スポーツ大好きクラブ PART 1 参加者 21 名（小学4年～6年）

## 5. 参加実績

20 名

## 6. プログラム内容

		12:30	13:00	14:30	17:00	18:00	19:00	20:30	21:30
6/21 (土)		受付開始	開会式・レクゲーム	ジロ・デ・モリー (自転車ラリーゲーム)	入浴・休憩	夕食	森のカーニバル (YOSAKOI体験)	自由交歓	就寝

		6:30	7:00	8:00	9:00	11:30
6/22 (日)	起床	朝食	宿舎清掃	力をこめて！ (東大沼10人乗りカヌー体験)	閉会	

## 7. 活動の様子

1日目。開会式の後、グラウンドで『スポーツオニごっこ』を実施。PART 1で築いたグループメンバーとのつながりをもとに、作戦を立て、アタッカーやディフェンダーなど役割分担をしながら、25m四方のコートを走り回った。「作戦を立てて遊べて楽しかった。」「みんなで勝利を勝ち取った喜びは忘れられない。」との声が聞かれた。

その後、『ジロ・デ・モリー』と題し、サイクリングラリーに挑戦。コマ図をもとにチェックポイントを目指し、グループで問題を解いたり、時には励まし合ったりしながら11kmのコースを完走した。「クイズに答えたり道に迷ったりして、みんなで探検した気分になった。」「コースが長くて疲れたけど、足が強くなったような気がする。」と話していた。

夜は、『森のカーニバル』と題しYOSAKOIを体験。ネイパル森の事業や合宿のみならず、函館近郊のイベントでも活躍している函館学生連合「息吹」メンバー11名の協力を得て、参加者全員で「よっちょれ」に取り組んだ。参加者はマンツーマン指導のもと、徐々に踊りが完成していく期待感と、踊りをとおして会場一体となっていく雰囲気を楽しみながら時間いっぱい体を動かした。「息吹のみなさんはかっこよかった。」「いっぱい踊って疲れたけどおもしろかった。」と話していた。

2日目。カヌーイースト大沼の協力を得て『力を込めて～10人乗りカヌー体験～』を実施。子どもたちだけの力で、およそ1時間半のカヌークルージングに挑戦。「初めての体験で心配でしたが、思い切ってやってみるとみんなと息を合わせてできたので楽しかった。」「すごく疲れたけど大勢でやれてよかった。」と話していた。



## 8. 参加者の声（心に残ったプログラム内容とその理由を教えてください。）

### ①スポーツオニゴっこ

- ・対決が楽しかった。
- ・力を合わせて勝てたし、僕も得点できよかった。
- ・みんなで作戦を考えて遊んだのが楽しかった。

### ②ジロ・デ・モリー ～サイクリングラリー～

- ・みんなで自転車をこいだのがよかった。
- ・初めて自転車にのって楽しかった。
- ・みんなでゴールまでたどりつけたのでよかった。

### ③森のカーニバル ～YOSAKOI 体験～

- ・迫力があってすごい!と思った。将来 YOSAKOI をやりたい。
- ・とても楽しかった。YOSAKOI に興味が出てきた。
- ・初めてやったのですごく楽しかった。

### ④力を合わせて ～10人乗りカヌー体験～

- ・とても長くてうでがつかれたけど楽しかった。
- ・初めてのカヌーはきつかったけど楽しかった。
- ・競争もあって楽しかった。



## 9. 事業の分析と考察

「平成 25 年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果（文部科学省）」より、児童が「もっと運動をしてみようと思う」ための条件として、「好き・できそうな種目があれば」「友達と一緒にできたら」と答えた児童生徒が 60%を超えている（50%を超えているのはこの 2 項目である）ことが明らかにされている。そこで、お手本を見ながら運動できる活動、集団で取り組む活動、見たり聞いたりしたことはあるが初めて取り組む活動、を多種多様に組み込み、運動を苦手としている子に対し運動への意欲・関心を高めて活動できるように努めた。

20名の児童からのアンケートから、その子その子がそれぞれの種目に対し「初めての体験」「仲間との協力」「対抗戦」に価値を見出し、意欲的に活動できたことが分かった。また、どの活動においてもリタイアする子どもは無く、最後までがんばったという「達成感」を得ることができた。

反面、プログラムを通して「体力・運動能力が高まった実感」を得るには至っていない。また、地域や家庭に戻った子どもの「運動習慣」が身に付いているのか、追跡していく必要を感じている。

## 10. 成果と課題

### ○ 成果

- ・多種多様なプログラムを提供したことで、1人1人が自分に合った運動への意欲やめあてをもつことができた。特に、初めて挑戦するプログラムにおいて達成感をもち、体を動かす心地よさや大切さを実感することができた。
- ・YOSAKOI 体験やカヌー体験では、将来自分もやってみたいなど、今後の運動への意欲を引き出すことができた。
- ・スポーツオニゴっこやサイクリングラリー体験では、グループの友達との協力や対抗へ意義を見出すなど、集団の中でも運動への意欲を高めて取り組むことができた。

### ○ 課題

- ・体力・運動能力の高まりを1人1人が自覚できるには至っていない。体力・運動能力の向上がこの事業の目玉であることを実証できるように努める。
- ・4回シリーズの事業である特色を活かし、地域や家庭に戻った児童がシリーズの合間に体を動かすことができる工夫を施し、運動習慣の定着やその大切さを伝える事業にしていきたい。

